

那珂市名誉市民紹介

いわかみ にろう

(故)岩上 二郎氏

大正2年11月29日〜平成元年8月16日

(1913年)

(1989年)



◆功績の概要◆

大正2年(1913年)茨城県那珂郡瓜連村(現那珂市瓜連)に生まれ、昭和15年(1940年)に京都帝国大学法学部(現国立大学法人京都大学)を卒業後、ブリジストンに入社しましたが、その8ヶ月後に召集されました。その後、主計将校として終戦を迎え、昭和21年(1946年)に復員しました。

帰郷後すぐに青年文化運動に参加して、地方民主主義文化の向上発展に努め、翌昭和22年(1947年)には、瓜連町長となりました。昭和26年(1951年)にいったん町長の座を退き、地方自治や社会福祉を研究するため、ペーダーイン大学(米国)に留学しました。氏は研究を修め、昭和30年(1955年)に帰国し、町長に復帰しました。

昭和34年(1959年)、茨城県知事選挙に出馬し当選しました。知事在任中は、「農工商全」を掲げて地域開

発を目指し、鹿島臨海工業地帯・筑波

研究学園都市の開発に力を注ぎ、今日に至る茨城県の産業と学術の基盤を作りました。また、長年の悲願であった米軍水戸射爆場(跡地は常陸那珂港や常陸海浜公園の1帯)の返還に特に尽力し、昭和48年(1973年)に返還に至りました。

昭和50年(1975年)に知事を退任した後、請われて再び茨城県歴史館長を務め(知事任職中、館長を兼務)、歴史資料保存法(後の公文書館法)制定に向けた運動に心血を注ぎました。また、鹿島地域の教育のレベルアップを目指して清真学園創立に奔走し、初代理事長に就任、県下屈指の進学校の礎を築きました。

昭和53年(1978年)に妻で参議院議員の岩上妙子氏が病により議員を辞職したため、それに伴う参議院補欠選挙に出馬して当選を果たしました。

氏は参議院議員を3期務め、この間、議員立法で「公文書館法」を制定しました。公文書のうち、歴史資料として

価値のある文書の保存に大きな役割を果たし、歴史館長時代の信念がここに実を結ぶことになりました。

また、議員在職中は科学技術政務次官を歴任するほか、平成元年(1989年)6月に公文書館法施行1周年記念として、国際文書館評議会(本部パリ)から名誉メダルを授与されています。

しかしその2か月後、肝不全のため、慶應義塾大学病院で議員在職中のみま惜しまれつつ逝去しました。

◆名誉市民選定の理由◆

瓜連町長として地域の発展に傾注するほか、茨城県知事としても鹿島臨海工業地帯・筑波研究学園都市の開発、米軍水戸射爆場の返還等の事業を推進し、現在の茨城県発展の礎を築いた功績は大きなものがあります。

また、茨城県知事退任後に清真学園を創立し、茨城県の教育レベルの向上に貢献するなど、政治家としてだけでなく、教育者としての功績も特筆すべきものがありました。

さらに、早くから歴史的な文書保存の必要性を認識し、参議院議員在職中に「公文書館法」を成立させました。

「公文書館法」は歴史資料の範囲に公文書等を含め、さらに国及び地方公共団体に、これらの保存及び利用に関し、適切な措置を講ずる責務を明文文化しました。これにより日本の公文書の保存及び活用に関する概念が確立さ

れました。これらの功績は誠に顕著であり、郷土の誇りとして尊敬に値するものと認められるため、名誉市民として選定するものです。

【略年表】

1913年(大正2年)	瓜連村で生まれる
1940年(昭和15年)	京都帝国大学卒業
	ブリジストン入社
	召集され陸軍に入隊
1946年(昭和21年)	復員 青年文化運動に参加
1947年(昭和22年)	瓜連町長に当選する
1951年(昭和26年)	町長を辞し米国ペーダーイン大学へ留学
1955年(昭和30年)	帰国 町長に復職
1959年(昭和34年)	茨城県知事に当選
1974年(昭和49年)	茨城県歴史館オープン
1975年(昭和50年)	茨城県知事辞職
	茨城県立歴史館長を再任
1978年(昭和53年)	参議院議員に当選
1982年(昭和57年)	科学技術政務次官に就任
1987年(昭和62年)	公文書館法制定
	勲一等瑞宝章を授与される
1989年(平成元年)	国際公文書館評議会名誉メダルを授与される
	慶應義塾大学病院で議員在職のまま逝去